

誇りは誰かのために輝く

極限の七戦で三度マウンドに立ち、歴史上二人目の快挙を成し遂げた山本由伸投手。

その偉業以上に心を打つのは、受賞の場で語った一言です。「ドジャースの二連覇に貢献できて本当にうれしい」。そこにあつたのは、自分の勲章よりも、仲間とつかんだ頂点を喜ぶまなざしでした。

前日に百球を超えてもなお準備を怠らず、九回の大ピンチで自ら志願する。その姿勢は「勝ちたい」ではなく、「託された思いに応えたい」という覚悟の表れです。

七試合中三試合に登板し、流れを引き戻した責任感。なぜそこまで戦えたのか。何が彼を奮い立たせたのか。仲間の期待を背負うとき、人は眠っていた力を解き放ちます。称賛よりも使命を選ぶ心が、限界を越えさせるのです。あなたは誰の期待に応えようとしていますか。その問いが、まだ見ぬ力を呼び覚まします。

今日の言霊：利他が力を解法

歴史に残る数字だけが価値ではありません。本当に注目すべきは、栄光を独り占めせず、仲間と分かち合う姿勢です。大舞台で何度も責任ある場面を任せられながら、喜びを語るときに出てきたのは感謝の気持ちでした。

重圧の中で準備を続け、必要とされる瞬間に迷わず立ち向かう。その背景には、周囲への信頼と恩返しの思いがあります。学校生活でも同じです。自分の評価だけを追い求めるより、支えてくれる人の期待に応えようとする方が、大きな力を引き出します。

誰かのために努力する経験は、困難を乗り越える強さを育てます。その積み重ねが、やがて揺るぎない自信となり、未来を切り開く土台になります。

【今回の学び】⇒期待に応えようとする姿が限界を越えさせる！



誇りは誰かのために輝く

極限の七戦で三度マウンドに立ち、歴史上二人目の快挙を成し遂げた山本由伸投手。

その偉業以上に心を打つのは、受賞の場で語った一言です。「ドジャースの二連覇に貢献できて本当にうれい」。そこにあつたのは、自分の勲章よりも、仲間とつかんだ頂点を喜ぶまなざしでした。

前日に百球を超えてもなお準備を怠らず、九回の大ピンチで自ら志願する。その姿勢は「勝ちたい」ではなく、「託された思いに応えたい」という覚悟の表れです。

七試合中三試合に登板し、流れを引き戻した責任感。なぜそこまで戦えたのか。何が彼を奮い立たせたのか。仲間の期待を背負うとき、人は眠っていた力を解き放ちます。称賛よりも使命を選ぶ心が、限界を越えさせるのです。あなたは誰の期待に応えようとしていますか。その問いが、まだ見ぬ力を呼び覚まします。

今日の言霊：利他が力を解法

★問一（語句の意味）本文中の「快挙」と同じ意味として最も適切なものを、次のア、エから一つ選びなさい。

ア 偶然に起こった出来事
イ 人々を驚かせるすばらしい成果
ウ 長い間続いてきた伝統
エ 苦勞の末に失敗すること

★問二（内容理解）山本投手の言葉「ドジャースの二連覇に貢献できて本当にうれしい」から読み取れる心情として最も適切なものを、次のア、エから一つ選びなさい。

ア 自分の個人成績を誇りに思う気持ち
イ 相手チームへの対抗心
ウ 仲間とともに勝利したことへの喜び
エ 観客からの称賛への満足感

★問三（内容理解）本文によれば、山本投手が九回の大ピンチで自ら志願した理由として最も適切なものを、次のア、エから一つ選びなさい。

ア 自分の記録をさらに伸ばしたかったから
イ 監督に評価されたいと思ったから
ウ 勝利投手になりたかったから
エ 託された思いに応えたいという覚悟があつたから

★問四（内容理解）本文の主張として最も適切なものを、次のア、エから一つ選びなさい。

ア 人は自分の名譽のためにこそ最大の力を発揮する。
イ 努力は必ず個人の成功につながる。
ウ 仲間の期待を背負うとき、人は限界を超える力を出せる。
エ 才能のある人だけが偉業を達成できる。

★問五（記述式）本文の内容を踏まえ、山本投手が限界を超えて戦えた理由を四十字程度で述べなさい。

【模範解答・解説】

★問一 正解：イ

○解説④ 「快拳」とは、めつたにないすばらしい成果や偉業を指す語である。したがって「人々を驚かせるすばらしい成果」が最も適切である。

★問二 正解：ウ

○解説④ 本文では「自分の勲章よりも、仲間とつかんだ頂点を喜ぶまなざし」とある。個人の栄誉よりもチームの勝利を喜ぶ姿勢が読み取れる。

★問三 正解：エ

○解説④ 本文には『勝ちたい』ではなく、『託された思いに伝えたい』という覚悟の表れ」と明記されている。したがってエが正しい。

★問四 正解：ウ

○解説④ 「仲間の期待を背負うとき、人は眠っていた力を解き放ちます」「称賛よりも使命を選ぶ心が、限界を越えさせる」とある。本文の中心的主張は、利他的な使命感が人を強くするという点にある。

★問五 模範解答例④

仲間の期待に応えたい使命感があったからこそ戦えたのだ

○解説④ 本文全体を通して、山本投手を奮い立たせた原動力は「仲間の期待」「託された思いに伝える覚悟」と示されている。その要点を簡潔にまとめることが求められる。

歴史に残る数字だけが価値ではありません。本当に注目すべきは、栄光を独り占めせず、仲間と分かち合う姿勢です。大舞台で何度も責任ある場面を任せられながら、喜びを語る時に出てきたのは感謝の気持ちでした。



重圧の中で準備を続け、必要とされる

瞬間に迷わず立ち向かう。その背景には、周囲への信頼と恩返しの思いがあります。学校生活でも同じです。自分の評価だけを追い求めるより、支えてくれる人の期待に応えようとする方が、大きな力を引き出します。

誰かのために努力する経験は、困難を乗り越える強さを育てます。その積み重ねが、やがて揺るぎない自信となり、未来を切り開く土台になります。

【今回の学び】⇒期待を超えさせる姿が限界を超えさせる！